

行田地区総合高校準備委員会

報告書

平成15年3月

目 次

ページ

1	行田地区総合高校の基本的枠組み	1
2	学校像、育てたい生徒像	1
3	教育課程の基本方針	2
4	設置する学科等	2
5	設置教科・科目等	6
6	施設・設備	9
7	特長	9
	参考	9

資 料

1	行田地区総合高校準備委員会の審議経過	10
2	行田地区総合高校準備委員会専門部会の審議経過	10
3	新校準備委員会設置要綱	11
4	行田地区総合高校準備委員会委員名簿	13
5	行田地区総合高校準備委員会専門部会部会員名簿	14

はじめに

県教育委員会は、平成13年3月に策定した「21世紀いきいきハイスクール推進計画」の中で、生徒数の減少を踏まえ、県立高校の活性化・特色化を図り、各学校をいきいきとさせていくため、県立高校の教育内容の充実を図るとともに、県立高校の再編整備を進めながら、彩りゆたかな高校づくりを推進する方向性を示しました。

この方針に基づき、平成14年1月には、平成15年度までに再編整備に着手する計画を「21世紀いきいきハイスクール前期再編整備計画」として策定しました。

この計画の中で、行田進修館高校、行田工業高校、行田女子高校の統合により、行田地区総合高校を平成17年度に設置することが示されました。

これを受け、行田地区総合高校準備委員会は、専門部会に対し、教育内容の専門的な事項の検討を委ねながら、統合により設置される学校の基本的な枠組みなどについて、検討を進めてまいりました。

この報告は、その検討結果をとりまとめたものです。

1 行田地区総合高校の基本的枠組み

(1) 行田地区総合高校の設置の目的

行田地区総合高校は、生徒の幅広い進路希望を実現する、地域に根ざした高校として、生徒の多様な学習ニーズに対応し、総合的に学ぶことができる高校として設置する。

(2) 行田地区総合高校の設置

行田地区総合高校は、行田進修館高校、行田工業高校及び行田女子高校を統合し、3校のこれまでの教育活動を踏まえた総合高校として設置する。

(3) 設置場所

行田市大字長野1320番地（現行田進修館高校）に設置する。

(4) 課程・学科

全日制課程の普通科、工業に関する学科、総合学科とする。

(5) 学校規模

普通科40人、工業に関する学科120人、総合学科240人、3学科合わせて各年次400人、合計1,200人の規模を想定する。

(6) 開校予定年度

平成17年度を開校予定とする。

2 学校像、育てたい生徒像

(1) 学校像

学校像は、行田地区総合高校の設置の目的や再編整備対象校のこれまでの取組を踏まえ、次のとおりとした。

多様な学習ニーズに対応し、生徒の進路希望を実現する学校 基礎・基本の定着のもとに学力の向上を図り、生徒の意欲を伸ばし、人間性を育む学校 保護者や地域住民の信頼にこたえ、地域との交流・連携を進める学校

(2) 育てたい生徒像

育てたい生徒像は、学校像や再編整備対象校のこれまでの取組などを踏まえ、次のとおりとした。

基礎学力の定着のもと、多様な学習機会を通して自主的に学習できる生徒 自律的な態度と責任感を身につけた生徒 有為な社会人として、地域を発展させ、広く社会に貢献できる生徒

3 教育課程の基本方針

教育課程の基本方針は、行田地区総合高校の設置の目的、学校像、育てたい生徒像等を踏まえ、次のとおりとした。

<p>生徒の進路希望に対応できる選択科目を設置する。 進学希望に対応するため、基礎科目を充実させる。 自由選択科目において、学科の枠をこえた履修を可能とする。 学力の向上に向け、校内体制を整備するとともに、授業時間の確保を図る。 長期休業期間などにおける課外補習体制や生徒の自学自習を支援する体制を整える。 キャリアガイダンス機能を充実させる。 地域を活用し、履修形態の充実を図る。 二学期制を導入する。 単位制を導入する。 学校評議員制度を導入する。 特別活動や部活動などの充実を図る。</p>
--

4 設置する学科等

(1) 設置する学科等

設置する学科は、「21世紀いきいきハイスクール前期再編整備計画」や再編整備対象校の学科等を踏まえ、その発展・継承を図る観点から、次のとおりとした。

【普通科】

【工業に関する学科】〔電気システム科、情報メディア科、ものづくり科〕

【総合学科】〔文科系列、国際系列、理数系列、美術系列、商業に関する系列〕
工業に関する小学科、系列名は仮称である。

(2) 普通科の目標等

ア 普通科の目標と想定進路

目 標	想定進路
教育活動全体を通して、一般的な教養を高め、個性の確立に努めるとともに、有為な社会人として必要な資質を養う。	国公立など、文系・理系大学への進学

イ 普通科における取組

個別指導を重視し、一貫した進路指導を行い、各生徒の進路希望を実現するため、以下の取組を行う。

- (ア) 英語や数学などにおいて、得意科目を伸ばすための少人数授業を実施する。
- (イ) 7時間目の授業時間を設け、週当たりの授業時間を増やした教育課程とする。
- (ウ) 長期休業期間などにおける課外補習体制や生徒の自学自習を支援する体制を整える。
- (エ) 大学見学や出張講義などを通じて、生徒の進学に向けた動機付けを図る。
- (オ) 公私立高校等における先進的な取組を参考にすることなどにより、教職員の資質を高める。

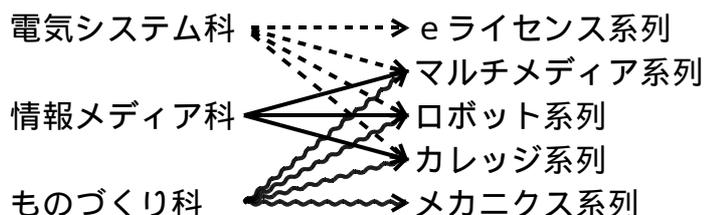
(3) 工業に関する学科における目標等

ア 各年次における教育内容

1年次は、工業に関する基礎を学習し、2年次は、工業に関するそれぞれの専門科目を学習する。3年次は、進路に応じた系列を選び、希望を実現するための学習を行う。

	1年次	2年次	3年次
各年次の目標	工業に関する基礎学力の育成期間	専門分野に関する技術・知識の習得期間	希望する進路に応じた学習の期間
学習の内容	総合的に工業の基礎を習得する。 英語、数学、理科の基礎学力の定着を図る。 産業技術の理解を通じ、進路選択に向けた学習をする。	電気システム、情報メディア、ものづくりのいずれかの分野に進み、各分野の専門的技術・知識を習得する。	大学進学、資格取得、学科を横断する先進分野のいずれかについて、進路希望に応じた学習分野に分かれ、さらに進んだ技術・知識を習得する。

年次の進行に併せて選択できる学科や系列について



イ 工業に関する学科の目標

小 学 科	目 標
電気システム科	電気に関する基礎・基本とシステム化された電力技術やコンピュータの応用技術を学び、電気の技術者として必要な能力と実践的な態度を育てる。
情報メディア科	情報に関する基礎・基本を学び、情報及びメディアを活用できる技術者として必要な能力と実践的な態度を育てる。
ものづくり科	機械に関する基礎・基本とものづくりを基盤に据え、ものづくりを通して自己実現できる技術者として必要な能力と実践的な態度を育てる。

ウ 系列の特長と想定進路

系列名	特 長	想定進路
e ライセンス系列	電気主任技術者等の資格取得を目指す。	電気機器関連分野への就職、大学・短大・専門学校への進学。
マルチメディア系列	コンピュータグラフィックスやネットワークシステムについて学ぶ。	コンピュータ関連分野への就職、大学・短大・専門学校への進学。
ロボット系列	コンピュータを利用したロボット等の機械制御について学ぶ。	電子機器関連分野への就職、大学・短大・専門学校進学。
カレッジ系列	工業系大学へ進学するための学習を重視する。	国公立・私立大学、短大の工学部進学。
メカニクス系列	機械に関する基礎的な知識・技術について学ぶ。	機械関連分野への就職、大学・短大・専門学校進学。

e ライセンス系列の e は、電気 (electricity) を示す。

エ 工業に関する学科における取組

- (ア) 専門的知識や技術を習得するとともに、資格取得を目指す。
- (イ) 二学期制を導入し、早期に小学科、系列に関する学習が可能となるような工夫を検討する。
- (ウ) 大学への進学を目指すための指導を行う。
- (エ) ものつくり大学との連携を深め、出張講座や学校外における学習の単位認定を行い、科学技術の学習の水準を高めた新しいタイプの工業科とする。
- (オ) 生徒募集においては、小学科を指定せず募集し、入学後に小学科の選択を行う仕組みを検討する。

(4) 総合学科の目標等

ア 総合学科の系列の目標等

系列名	目 標	想定進路
文科系列	人文科学や社会科学に関する基礎的・基本的な知識を身につけさせ、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な資質を養う。	国公立・私立の各文系大学・短大、専門学校への進学。
国際系列	国際関係や外国語に関する基礎的・基本的な知識を身につけさせ、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	国公立・私立の外語・国際系大学・短大、専門学校への進学。
理数系列	自然科学に関する基礎的・基本的な知識を身につけさせ、科学的、数学的に考察し、処理する能力と態度を育てる。	国公立・私立の理系大学・短大、専門学校への進学。
美術系列	美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、創造的な表現と鑑賞の能力を高め、美術文化の発展に寄与する能力と態度を養う。	国公立・私立の美術系大学・短大、専門学校への進学。
商業に関する系列	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、商業の意義や役割を理解させるとともに、経営活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる。	国公立・私立の商業系大学・短大、専門学校への進学。 販売・サービス関連分野への就職。

イ 総合学科における取組

進路実現のための指導体制を充実させるとともに、多様な選択科目を設定するため、以下により取り組む。

- (ア) 生徒の学習プランを充実させるため、二学期制のメリットを活かした講座の設定について検討する。
- (イ) 個々の生徒に対するガイダンス体制を充実し、授業科目の選択における指導を通して、進路に応じた学習を系統的かつ徹底して行う。
- (ウ) 長期休業期間などにおける課外補習体制や生徒の自学自習を支援する体制を整える。

(5) 新校の学科の名称などの検討

新校の教育内容などを明確にするため、新校における通称・呼称の使用を検討する。

5 設置教科・科目等

行田地区総合高校は、普通科、工業に関する学科、総合学科を設置する総合高校であり、設置される学科や系列を踏まえ、教科・科目等の構成と設置する教科・科目等は、次のとおりとした。設置する教科・科目の例は、平成11年3月告示の高等学校学習指導要領に基づき設定した。今後、この例を参考に教育課程を編成する。

(1) 普通科

ア 教科・科目等の構成

教科・科目等の構成は次のとおりである。

(ア) 教科・科目

・ 必履修科目 ・ 選択履修科目

(イ) 総合的な学習の時間

(ウ) ホームルーム活動

イ 設置する教科・科目等

(ア) 学習指導要領に示された必履修科目

教科	科 目
国 語	国語表現 及び国語総合のうちから1科目
地理歴史	世界史A及び世界史Bのうちから1科目並びに日本史A、日本史B、地理A及び地理Bのうちから1科目
公 民	現代社会又は倫理・政治・経済
数 学	数学基礎及び数学 のうちから1科目
理 科	理科基礎、理科総合A、理科総合B、物理 、化学 、生物 及び地学 のうちから2科目（理科基礎、理科総合A及び理科総合Bのうちから1科目以上を含むものとする）
保健体育	体育及び保健
芸 術	音楽 、美術 、工芸 及び書道 のうちから1科目
外国語	オーラル・コミュニケーション 及び英語 のうちから1科目
家庭	家庭基礎、家庭総合及び生活技術のうちから1科目
情 報	情報A、情報B及び情報Cのうちから1科目

(イ) 選択履修科目

今後の教育課程の編成の中で検討する。

(ウ) 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間においては、地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行う。

(2) 工業に関する学科

ア 教科・科目等の構成

教科・科目等の構成は次のとおりである。

(ア) 教科・科目

- ・普通科目（必履修科目）
- ・専門科目（原則履修科目・各学科における専門科目）
- ・選択的に履修できる科目（普通科目・専門科目）

(イ) 総合的な学習の時間

(ウ) ホームルーム活動

イ 設置する教科・科目等

(ア) 学習指導要領に示された必履修科目

普通科に同じ。

(イ) 原則履修科目

工業技術基礎 課題研究

(ウ) 各学科における専門科目の例

小学科	科 目 の 例
電気システム科	工業数理基礎 実習 電気製図 電気機器 電子回路 通信技術 材料技術基礎
情報メディア科	工業数理基礎 実習 情報と表現 アルゴリズム ネットワークシステム コンピュータデザイン マルチメディア表現
ものづくり科	工業数理基礎 実習 機械製図 機械工作 機械設計

(エ) 選択的に履修できる科目（普通科目・専門科目）

今後の教育課程の編成の中で検討する。

(オ) 総合的な学習の時間

普通科に同じ。

(3) 総合学科

ア 教科・科目等の構成

教科・科目等の構成は次のとおりである。

(ア) 教科・科目

- ・ 必履修科目
- ・ 原則履修科目（総合学科）
- ・ 総合選択科目（系列に関する選択科目）
- ・ 自由選択科目

(イ) 総合的な学習の時間

(ウ) ホームルーム活動

イ 設置する教科・科目等

(ア) 学習指導要領に示された必履修科目

普通科に同じ。

(イ) 原則履修科目

「産業社会と人間」を1年次に履修する。

(ウ) 総合選択科目の例

文科系列

国語表現 現代文 古典 古典講読 地理B リーディング
学校設定科目（例：日本史演習 世界史演習 文系数学）

国際系列

国語表現 現代文 世界史A リーディング
学校設定科目（例：日本史演習 英文講読 英語演習A・B）

理数系列

現代文 日本史A 数学 物理 ・ 生物 ・ 地学 ・
化学 リーディング
学校設定科目（例：理系数学 数学演習）

美術系列

現代文 日本史A 地理A 素描
学校設定科目（例：ビジュアルデザイン コンピュータ造形 絵画）

商業に関する系列

会計 プログラミング
学校設定科目（例：流通経済 プレゼンテーション）

(エ) 自由選択科目の例

レクリエーション 硬筆 実用の書 応用の書 声楽 器楽 リスニング
中国語 フランス語 スペイン語 ドイツ語 保育 簿記基礎 表計算
文書処理 商業デザイン などの学校設定科目

(オ) 総合的な学習の時間

普通科に同じ。

6 施設・設備

施設・設備については、教育課程の基本方針や設置教科・科目等の検討結果を踏まえ、既存施設・設備の有効活用を基本に、必要な施設・設備の計画的な整備に努めることとする。

7 特 長

行田地区総合高校の特長は、次のとおりである。

普通科、工業に関する学科及び総合学科の3学科を有する単位制の総合高校とする。

県北では初めて、普通科、工業に関する学科に単位制を導入する。

大学への進学を重視した教育課程を編成する。

学科の枠をこえた履修を可能とする仕組みを取り入れ、生徒の特性や進路希望に応じた学習ができるようにする。

参 考

再編整備対象校の現行の学科、募集人員と新校設置時の学科、想定募集人員は、次のとおりである。

現 行（平成14年度）			新校設置時（平成17年度）		
学 校 名	学 科	募集人員	新校のタイプ	学 科	想定募集人員
行田進修館	総 合	280	行田地区 総合高校	普通科	40
行田工業	工 業	200		工業に関する学科	120
行田女子	普 通	160		総合学科	240

行田地区総合高校準備委員会の審議経過

開催年月日	審議内容
平成14年 2月20日	第1回(他地区と合同) <ul style="list-style-type: none"> ・21世紀いきいきハイスクール推進計画及び21世紀いきいきハイスクール前期再編整備計画の概要 ・新校準備委員会及び専門部会 ・検討事項及び検討日程
平成14年 4月22日	第2回 ・新しい学校像、育てたい生徒像
平成14年 7月17日	第3回 ・行田地区総合高校の学校像、育てたい生徒像 <ul style="list-style-type: none"> ・行田地区総合高校の教育内容
平成14年 9月20日	第4回 ・行田地区総合高校の学校像 <ul style="list-style-type: none"> ・大学への進学を可能とするシステム ・工業科の改編 ・芸術教育の充実 ・教育課程の基本方針
平成14年10月21日	第5回 ・教育課程の基本方針 <ul style="list-style-type: none"> ・想定募集人員 ・中間まとめ
平成15年 1月20日	第6回 ・「中間まとめ」に対する御意見等 <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の具体化
平成15年 3月19日	第7回 ・行田地区総合高校準備委員会報告書

行田地区総合高校準備委員会専門部会の審議経過

開催年月日	審議内容
平成14年 2月20日	第1回(他地区と合同) <ul style="list-style-type: none"> ・21世紀いきいきハイスクール前期再編整備計画の概要 ・新校準備委員会及び専門部会 ・検討事項及び検討日程 ・第2回新校準備委員会専門部会
平成14年 4月30日	第2回 ・新しい学校像、育てたい生徒像
平成14年 6月 5日	第3回 ・行田地区総合高校の学校像・育てたい生徒像 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の取組の発展・継承の方法
平成14年 7月 5日	第4回 ・新校の教育内容の具体化
平成14年 9月13日	第5回 ・行田地区総合高校の学校像 <ul style="list-style-type: none"> ・大学への進学を可能とするシステム ・工業科の改編 ・芸術教育の充実 ・教育課程編成の基本方針
平成14年10月17日	第6回 ・教育課程の基本方針 <ul style="list-style-type: none"> ・想定募集人員 ・学科の方向性
平成14年12月17日	第7回 ・教育課程の具体化
平成15年 1月14日	第8回 ・「中間まとめ」に寄せられた御意見等 <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の具体化
平成15年 3月11日	第9回 ・専門部会における検討のまとめ

新校準備委員会設置要綱

(設置)

第1条 「21世紀いきいきハイスクール前期再編整備計画」(以下「再編整備計画」という。)の円滑な推進を図るため、再編整備計画に基づき新たに設置される高校(以下「新校」という。)ごとに、別表1に定める新校準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について所掌する。

- (1) 新校の基本的枠組み、教育課程及び教育内容に関すること。
- (2) 新校への移行の円滑な推進に関すること。
- (3) その他新校の設置に関すること。

(構成)

第3条 委員会は、別表2に掲げる者をもって構成する。

- 2 委員会の構成員(以下「委員」という。)は、教育長が委嘱または任命する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。
- 4 委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。

(会議)

第4条 委員長は、委員会の会議を招集し、主宰する。

- 2 委員長は必要に応じて、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議の公開)

第5条 委員会の会議は、原則として公開とする。ただし、出席した委員の3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

(設置期間)

第6条 委員会の設置期間は、委員会が設置された日から平成15年3月31日までとする。

(専門部会)

第7条 委員会に、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置く。

- 2 専門部会は、部会長及び部会員で構成し、別表3に掲げる職にある者をもって充てる。
- 3 部会長は、部会員の中から、委員会の委員長が指名する職にある者をもって充て、専門部会を統括する。
- 4 部会長は、専門部会の会議を招集し、主宰する。
- 5 部会長は、必要に応じて、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 6 専門部会は、原則として公開とする。ただし、出席した部会員の3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

(庶務)

第8条 委員会及び専門部会の庶務は、教育局管理部高校改革推進室長において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会及び専門部会の運営について必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成14年2月19日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

別表 1

新校準備委員会

	再編整備対象校
比企地区総合学科高校準備委員会	滑川高校 吉見高校
秩父地区総合技術高校準備委員会	秩父農工高校 秩父東高校
行田地区総合高校準備委員会	行田進修館高校 行田工業高校 行田女子高校
南部地区パレットスクール準備委員会	戸田高校 浦和商业高校(定) 与野高校(定) 蕨高校(定)

別表 2

新校準備委員会委員

地元関係者	地元市町代表 地元教育委員会代表 地元関係者
学校関係者	中学校長会地区代表 再編整備対象高校長
教育局	管理部参事 高校改革推進室長

別表 3

専門部会

所属課等	部会員
再編整備対象校	校長 教頭 事務長又は事務室長(新校設置校) 校長の指定する教諭(各校1名)
財務課	教育主幹 高等学校施設担当主査
高校教育課	教員人事担当管理主事 学事担当管理主事 事務職員人事担当主査
指導課	指導主事 振興助成担当主査
高校改革推進室長	室長 主幹 教育主幹 管理主事 主査 主任

行田地区総合高校準備委員会委員名簿

	職名等	氏名	備考
地元・ 学校 関係者	行田市助役	横田昭夫	H14.2.20 ~ H14.12.7
	行田市教育委員会教育長	柴崎泰治	
	行田ケーブルテレビ(株) 代表取締役社長	小沢誠邦	
	行田市立西中学校長	加藤三紀雄	
	行田進修館高等学校長	大谷洋三	
	行田工業高等学校長	岡戸博	
	行田女子高等学校長	田中宏明	
教育局 関係者	指導部長	森正博	H14.2.20 ~ H14.3.31
	管理部参事	朝倉恒夫	H14.4.1 ~ H15.3.31
	高校改革推進室長	前島富雄	H14.2.20 ~ H14.3.31
	高校改革推進室長	真下茂	H14.4.1 ~ H15.3.31

委員の任期は、平成14年2月20日から平成15年3月31日までである。

行田地区総合高校準備委員会専門部会名簿

所 属	職 名	氏 名	備 考
行田進修館高等学校	校 長	大 谷 洋 三	
行田進修館高等学校	教 頭	石 井 祥 彦	H14.2.20 ~ H14.3.31
行田進修館高等学校	教 頭	小 林 邦 雄	H14.4. 1 ~ H15.3.31
行田進修館高等学校	事務室長	小 泉 正 行	H14.2.20 ~ H14.3.31
行田進修館高等学校	(指定校)事務長	原 田 公 子	H14.4. 1 ~ H15.3.31
行田進修館高等学校	教 諭	嶋 村 秀 樹	H14.2.20 ~ H14.3.31
行田進修館高等学校	教 諭	橋 本 準 一	H14.4. 1 ~ H15.3.31
行田工業高等学校	校 長	岡 戸 博	
行田工業高等学校	教 頭	西 島 峯 夫	H14.2.20 ~ H14.3.31
行田工業高等学校	教 頭	金 井 文 夫	H14.4. 1 ~ H15.3.31
行田工業高等学校	専門調査員兼事務長	新 井 一 雄	H14.2.20 ~ H14.3.31
行田工業高等学校	専門調査員兼事務長	原 口 俊 宏	H14.4. 1 ~ H15.3.31
行田工業高等学校	教 諭	小長谷 保 彰	
行田女子高等学校	校 長	田 中 宏 明	
行田女子高等学校	教 頭	市 川 和 夫	H14.2.20 ~ H14.3.31
行田女子高等学校	教 頭	齋 藤 勝 一	H14.4. 1 ~ H15.3.31
行田女子高等学校	教 頭	益 子 篤 行	H14.4. 1 ~ H15.3.31
行田女子高等学校	専門調査員兼事務長	加 藤 芳 雄	
行田女子高等学校	教 諭	関 俊 秀	H14.2.20 ~ H14.3.31
行田女子高等学校	教 諭	斉 藤 英 市	H14.4. 1 ~ H15.3.31
財 務 課	教育主幹	岡 村 和 典	H14.4. 1 ~ H15.3.31
財 務 課	主 査	吉 田 浩 士	
高 校 教 育 課	管理主事兼主査	渡 邊 亮	
高 校 教 育 課	管理主事兼主査	高 田 直 芳	
高 校 教 育 課	主 査	橋 本 強	
指 導 課	指導主事	阿久津 利 明	H14.2.20 ~ H14.3.31
指 導 課	指導主事	梶 寛 治	H14.4. 1 ~ H15.3.31
指 導 課	主 査	志 村 進	
高校改革推進室長	室 長	前 島 富 雄	H14.2.20 ~ H14.3.31
高校改革推進室長	室 長	真 下 茂	H14.4. 1 ~ H15.3.31
高校改革推進室長	管理部副参事兼主幹	長谷川 清 司	H14.4. 1 ~ H15.3.31
高校改革推進室長	主任管理主事兼教育主幹	高 橋 丘	H14.2.20 ~ H14.3.31
高校改革推進室長	教育主幹	塩野谷 孝 志	H14.2.20 ~ H14.3.31
高校改革推進室長	教育主幹	井 田 秀 夫	H14.4. 1 ~ H15.3.31
高校改革推進室長	管理主事	河原塚 努	H14.2.20 ~ H14.3.31
高校改革推進室長	管理主事	吉 岡 秀 樹	
高校改革推進室長	管理主事	森 一 夫	H14.4. 1 ~ H15.3.31
高校改革推進室長	主 査	小 林 裕 一	
高校改革推進室長	主 任	渡 辺 悟	H14.4. 1 ~ H15.3.31

部下委員の任期は、平成14年2月20日から平成15年3月31日までである。